

令和8年度 公立学校新規採用教職員辞令交付式 教育長訓辞

本日、島根県の教職員としての第一歩を踏み出されました皆さんに、心からお祝いを申し上げます。そして、皆さんが就職先を考えられる際、いろいろ選択肢があったり、迷われたこともあったのではないかと思います。最終的に島根県教職員となることを決断いただいたことに心から感謝申し上げます。これから島根の将来を担う子どもたちの教育という、重要な使命を自覚して、着実に歩みを進めていただきたいと思います。

さて、近年の子どもたちを取り巻く環境は複雑に変化してきており、人工知能（AI）などの先端技術の高度化やグローバル化の進展、産業構造や雇用形態の変化など、予測が困難な社会といった様相を呈しています。しかし、世の中がどれだけ複雑に変化していこうとも、子どもたちには、自らの手で将来を切り拓き、幸福で主体的な生き方を実現し、そして、よりよい社会の担い手となってほしいと願っています。

私は、そのような社会を生き抜いていくために必要なことの一つに「論理的な思考力」を身に付けることがあると思っています。将来、どのような仕事に就いても、物事に対して根拠をもって筋道を立てて考える「論理的な思考力」が、非常に重要な力となります。「論理的な思考力」を高めるためには、まず自分の考えをもち、自分の言葉で説明する、あるいは尋ねる、といった力が必要です。そして、子どもたちが互いに意見を述べ合い、自分の考えを深めてそれを言葉で表現する、こうした教育活動が子どもたち一人ひとりの思考過程を整理し、さらに理解を深め、次の問題解決への意欲を高めることに繋がっていきます。

また、これからの時代は、指示された仕事を着実に実行するだけでなく、自ら課題を発見し、その解決のために新しい発想で提案する力と、一歩前に踏み出して行動する勇氣、そして仲間と協働し物事に取り組む力、コミュニケーション力や表現力が求められます。自分の言葉で表現することは、学力をはじめ、人と関わる力、人と協働して取り組む力など、今の子どもたちに求められている多くの力の基盤であると思っています。

学校教育において目指すべき重要なことの一つに、学力の育成があります。子どもたちが今より少しでも理解が進み、自ら考え、論理的な思考ができるようになること、進路選択の幅が広がり、希望する進路に向かって進むことができるようになること、実社会に出た時に困らないこと、これらのことを実現するためには、学習において子どもたち一人ひとりがつまづかないように、また、たとえつまづいたとしても教員が子ども一人ひとりに応じて支援し、その困難さを乗り越えていくたくましさをも身につけていくことが大事だと思っています。そのためには、日々の授業の工夫はもとより、皆さんの指導や思いが、子どもたちの心に響く、そのような人間関係づくりに力を注ぐことが大切です。子どもたち一人ひとりと、真剣に向き合い、一緒に笑ったり、泣いたり、叱ったりすることで確かな信頼関係を築くことが、子どもたちの学力を育むとともに、将来の夢の実現に繋がると考えています。

ところで、島根県では、他の地域に誇れる島根の良さや魅力である「人のつながり、あたたかさ」を「誰もが、誰かの、たからもの。」として発信しています。家族に愛され、地域の人、教職員、友達から大切にされて育つこと。子どもたち自身が、「誰かのたからもの」であり、「誰もが自分のたからもの」であると思えるような教育を展開していきたいと考えています。特に不登校やいじめは、とても重要な課題です。だからこそ、学校ではお互いの個性や多様性を認め、励まし合い、支え合う「絆づくり」や、子どもたちにとって安全・安心で「居場所」のある集団づくりが大切になります。「自分も一人の人

間として大切にされている」と実感できた時、子どもたちの自己存在感や自己肯定感は高まっていきます。全ての子どもたちが活躍できる機会や出番がある授業づくりなど、自己存在感や自己肯定感を育む様々な教育活動をぜひ展開していただきたいと思います。

また、島根県の特色ある教育の一つとして、子どもたちが、地域の人から直接に学ぶ「ふるさと教育」があります。小学校では、子どもたちが身近な地域を中心に、自然や歴史・伝統、文化などを丁寧に調べ、それらに関わる体験活動を行っています。中学校や高校、特別支援学校では、地域の課題を探り、自分が将来、地域にどのように貢献できるのかを、学校・家庭・地域が一体となって考え、具体的な取組につながる学習を行っています。島根県の強みでもあるこうした学びは、子どもたちが実社会で生きるために必要な力となるとともに、どこに住んでいようとも、地域の人々と関わりを持って、一緒に地域の発展を支えていくような人を育てます。

皆さんも、赴任された学校において、先輩教職員とともに、地域の人と関わりを持ち、地域社会に貢献する島根の子どもたちを育てていってください。その結果、島根を愛し、島根に住み続けたい、一旦県外に出ても島根に戻ってきたいと思う若者がもっと増え、そして、島根を支えていただける若者が増えていくものと思っています。さらに、日本や世界を見渡す広い視野をもち、島根に思いを馳せながら活躍する若者が育ってくれることも期待しています。

最後に、島根県教育委員会では、本年3月に今後の働き方改革の方向性を示した「島根県教職員働き方改革プラン（県立学校の働き方改革と市町村教育委員会への取組）」を策定しました。教職員の皆さんが、自らも学ぶ時間を確保しながら健康な状態で生き生きと子どもたちの教育に邁進できる、「働きやすさ」と「働きがい」の両立した環境を整えることは、子どもたちに質の高い教育を提供する基盤であると考えています。

皆さんは、これから県内の様々な地域で勤務を開始されることとなります。島根県全体をふるさとと捉え、ふるさと島根の教育を教職員全員のチーム力で担っていく、そのような気概を持ち続けていただきたいと願っています。そして、明るく元気に子どもたちに向き合うことができる教職員人生を送っていただきたいと思います。

結びに、教育現場では、日々いろいろな出来事が起こります。皆さん一人ひとりの力では、解決できないような問題に直面することも多々あると思います。その時には、決して独りで抱え込まず、校長を始め、周りの諸先輩、同僚、各種相談機関に相談してください。

皆さん一人ひとりがたからものです。どうか健康にはくれぐれも留意され、自己研鑽に努めながら、これからの教職員生活で存分に力を発揮されることを期待しまして、訓辞といたします。

令和8年4月1日

島根県教育委員会教育長

井手久武